

平成25年度開催公開講座一覧

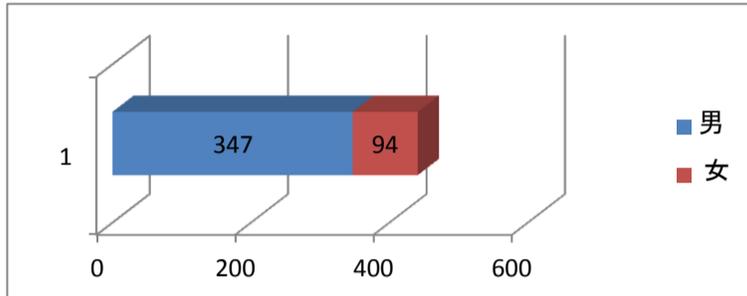
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
公開講座委員会	これからの都市に求められるイノベーションとは	急激な世界化、越境化により、都市は未曾有の変革がつきつけられ、またそれに対応するイノベーション（改革・刷新）が求められています。横浜や国内外の都市におけるイノベーションのあり様について、それぞれの専門分野の立場から本学教授陣により、ハード・ソフト両面からイノベーションについての比較考察ができる題材を提供します。 第1回①『「モーツァルトの街」ザルツブルクの誕生 ～政治と観光と文化がもたらした一地方都市の再生～』 ②「都市計画とイノベーション：過去・現在・未来」 第2回①「横浜の地盤災害と防災」 ②「安全・快適のための道路交通マネジメント」 第3回①「ラテンアメリカ、パラグアイ入門」 ②「これからの都市の生態系と管理」 第4回①「神奈川県における生産・消費構造変化と経済・環境指標」 ②「これからの都市のエネギーシステム」	小宮 正安（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授） 高見沢 実（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授） 菊本 統（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授） 田中 伸治（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授） 藤掛 洋子（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授） 小池 文人（横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授） 氏川 恵次（横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授） 佐土原 聡（横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授）	10月19日（土） 11月9日（土） 11月16日（土） 11月30日（土）	教育文化ホール 大集会室	587 (4日間合計)
教育人間科学部	熱中症予防と服装の関わりを考える 猛暑・節電の夏を乗り切るには	一昨年の東日本大震災の影響で、夏季の節電対策の一環として衣服の役割が注目されましたが、衣服は熱中症予防や健康・快適性維持にも貢献することが期待されています。暑熱環境下で温熱的快適性を維持するためには、クールビズで象徴されるような環境共生型の衣服の着方が大切です。季節に適合し、環境にも優しく、着用者自身にとっても快適な衣生活を営むためには、なにが重要であるのか、簡単な実験も交え、一緒に考えましょう。	薩本 弥生（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）	8月4日（日）	教育人間科学部講義棟7号館103室	30
	気持ちよいストレッチ	ストレッチは、スポーツなどで身体を動かす前のウォームアップや練習後のクールダウンに行われるだけでなく、家事や仕事の合間に、肩こりや腰痛の予防としても普及してきています。本講座で、効果的なストレッチの方法について実習していきます。	伊藤 信之（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）	10月26日（土）	体育館 ダンス場	39
	学び直しの小学校理科（物理編） ～第4学年『電気の働き』に関する実験やものづくり～	小学生がどんな勉強をしているのかを知りたいお父さんやお母さん、理科に苦手意識のある学生のみなさん、ものづくりを体験してみたい社会人のみなさん、もう一度、小学校理科を学んでみませんか？ 実験やものづくりを通して、小学校理科で学ぶ電磁気に関する基本的な内容を再確認し、日常生活での活用例もみていきます。	平島 由美子（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）	11月16日（土）	教育人間科学部第2研究棟316室 (物理学大実験室)	16
	身近な環境でできる体力増進運動	身近な環境でも、工夫次第で多様な運動を行うことができます。本講座では、健康・体力増進のための目標の立て方とそれに応じたトレーニングプログラム立案の方法について紹介しつつ、具体的な運動の行い方の紹介の実技講習を行いたいと思います。	伊藤 信之（横浜国立大学 教育人間科学部 教授）	11月30日（土）	体育館 ダンス場	18
経済学部	経済学のフロンティア	経済学の現実への応用として近年注目を集めている「行動経済学」と「マーケットデザイン」について、それぞれの専門家が最新理論について講義を行います。	武岡 則男（横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授） 坂井 豊貴（慶應義塾大学 経済学部 准教授） 熊野 太郎（横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授）	10月23日（水） 10月30日（水） 11月6日（水）	教育文化ホール 中集会室	155
理工学部	第7回 海洋空間のシステムデザイン カップ ひれ推進コンテスト	本コンテストでは、高校生に海や船・物造りの魅力を伝えるために講義とコンテストを実施します。まず7/15(月・海の日)に船や魚のひれに関する公開講座として講義を実施します。その後、8/24(土)までに各高校の参加チームにひれ推進模型を製作してもらい、これらを大型実験水槽にて走らせ、そのスピードを競うコンテストを行います。なお、講義の内容は以下の通り。 (1) 船はどんなふうに乗るの？ (2) 船はどうやったら速く走れるの？ (3) 魚はどんなふう泳ぐの？	鈴木 和夫（横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 和田 大志（横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授） 村井 基彦（横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授） 川村 恭己（横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 平川 嘉昭（横浜国立大学 大学院工学研究院 助教） 高山 武彦（横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員）	7月15日（月・祝） 8月24日（土）	船舶海洋工学棟3階講義室 大型実験水槽	120
工学研究院	利用者のための鋳鉄基礎講座	鋳物はその優れた成型性のために、上下水道やマンホールの施設などライフラインに関わる多くの場所で利用されています。従来、多くを経験に頼っていた鋳鉄の利用技術を学術的な立場と応用的な立場の両面で教授するのがこの講座の趣旨です。	八高 隆雄（横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 他 (横浜国立大学、日之出水道機器株式会社、他)	7月4日（木） 7月5日（金）	教育文化ホール 大学会館 会館ホール	93
	実践機器分析基礎講座（1） 機器分析を利用した有機分子構造解析の実際 —機器の選択とアプローチ—	分子構造解析は物質の性質を考える上で極めて重要なアプローチです。本講座は分子構造解析の初心者や実務者を対象とし、『有機分子構造解析において分析機器をどのように選択し利用したらよいのか』を理解するために、核磁気共鳴装置（NMR）および質量分析装置（MS）を中心として実際の測定を交えて学習します。	内藤 晶（横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 川村 出（横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授） 金子 竹男（横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員） 石原 晋次（横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員）	8月22日（木） 8月23日（金）	機器分析評価センター	2
	実践機器分析基礎講座（2） 電子線を用いる固体試料の観察及び分析	本講座は固体試料の観察及び元素分析の初心者や実務者を対象とするものです。固体試料の観察でよく用いられる、走査型電子顕微鏡（SEM）、透過型電子顕微鏡（TEM）および電子線マイクロアナライザー（EPMA）を用い、原理・構造や試料調整方法等の基礎を紹介するとともに、これらの装置を用いて実習を行います。	梅澤 修（横浜国立大学 大学院工学研究院 教授） 吉原 美知子（横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授） 近藤 正志（横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員） 根岸 洋一（横浜国立大学 機器分析評価センター 特任技術職員）	9月3日（火）	機器分析評価センター	9

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
工学 研究 院	—講義・実験を通じて学ぶ—材料の劣化とその対策	工業材料は、自らあるいは環境との相互作用によって劣化し、莫大な損失を生じます。本講座では、実際上の問題点をふまえ、材料の劣化とその対策について平易にかつ学問的な講義を行います。また講義の内容の理解を高め、かつ具体的に体得させるために、実験、実習および演習を併せて行います。	朝倉 祝治 (横浜国立大学 名誉教授) 関根 和喜 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 特任教授) 清水 紘治 (元・関東学院大学 工学部 教授) 東田 賢二 (九州大学 大学院工学研究院 教授) 石井 正義 (元・日石エンジニアリング 技術本部技術センター 部長) 高橋 宏治 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 笠井 尚哉 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 准教授) 澁谷 忠弘 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 長田 俊郎 (横浜国立大学 共同研究推進センター 特任教員 (研究教員))	9月2日 (月) 9月3日 (火) 9月4日 (水) 9月5日 (木) 9月6日 (金)	講義：理工学部C講義棟201室 実験：化工・安工棟 エネルギー棟 リカレント教育実験棟	32
	セラミックス材料の開発と利用のための基礎と実際	セラミックスをこれから学ぼうとする社会人技術者を対象として、セラミックス材料を構成する原子や分子の性質、材料の物理的、化学的性質について述べ、その材料の成形方法と焼結方法、結晶構造および電気的、力学的特性に関して解説します。また、諸特性を知るのに重要な状態図の見方を述べるとともに、演習も行います。	横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	9月12日 (木) 9月13日 (金)	理工学部C講義棟101室	2
	エンジニアのための実験講座① —腐食防食の評価・計測技術—	本講座では、腐食防食の評価に用いられる電気化学的な計測技術に焦点を当て、その原理と具体的な測定方法について講義と豊富な実験により習得いただけます。講座内容には、電気化学及び腐食防食工学の基礎的内容を把握されていることを前提とした部分もあります。 (本学主催の基礎講座(講座番号⑭)等を受講されることをお勧め致します。)	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師)	2014年1月23日 (木) 2014年1月24日 (金)	理工学部C講義棟101室 リカレント教育実験棟	10
	エンジニアのための実験講座② —ステンレス鋼の腐食防食基礎とその対策技術—	本講座は、ステンレス鋼の腐食とその対策技術など多岐にわたる学際的な内容を提供致します。また腐食事例を紹介しながら講義・実験を行いますのでより理解を深めていただくことができます。 なお、受講にあたっては、本内容に関連した本学主催の腐食防食基礎講座(講座番号⑭・⑮)をあらかじめ受講されることをお勧めします。	岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 梶村 治彦 (新日鐵住金ステンレス株式会社 研究センター フェロー)	2014年2月13日 (木) 2014年2月14日 (金)	理工学部C講義棟101室 リカレント教育実験棟	4
環境 情報 研究 院	毎日の生活から考える環境教育 ライフサイクル思考を取り入れた環境教育の教材紹介	地球温暖化やCO2排出削減などの環境問題に、私たちはどう向き合えばいいのでしょうか？本講座では、身近なモノのライフサイクルの学びを基礎に、私たち一人一人の毎日の生活に潜む環境問題を考えるための環境教育教材を紹介致します。	松本 真哉 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 水野 建樹 (未踏科学技術協会 研究主幹) 平山 世志衣 (横浜LCA環境教育研究会 代表)	8月8日 (木)	みなとみらいサテライトキャンパス	34
	最先端ロボット開発の現状と将来像	現在、ロボットの技術開発が急速に進み様々な分野での活用が行われています。最先端のロボットを紹介すると同時に、今後どのような技術開発が予想されるか、どのような分野へ進出が考えられるか等について解説します。	森下 信 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授)	10月26日 (土)	環境情報1号棟3F会議室	18
	身の回りの化学と物理	スマホやタブレットに使われているタッチパネル、森の枯れ木や枯れ葉の中に住んでいる粘菌の不思議な動き、女性には欠かせない化粧品について、それらの仕組みと面白さを化学・物理の原理を含めて解説します。	跡部 真人 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 田中 良巳 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 荒牧 賢治 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授)	8月24日 (土)	環境情報1号棟515室	51
	システムデザインの世界 ①宇宙探査機をデザインする ②力学を学んでカラダの理解を深めよう ③棒の断面形状をデザインする	①はやぶさのように惑星や小惑星へ行って、直接探査する宇宙探査機を知ってもらう講座です。どのような宇宙探査機があるのか、宇宙探査機の軌道はどうやって決めるのか、宇宙探査機はどのように設計するかなどを説明します。 ②iPS細胞などの細胞研究は化学や生物学を基礎とします。しかし、重力や運動によって力を受けて生体は健康に保たれているので、力学的観点による研究も重要です。本講座では、細胞や生体の基礎からはじめて、機械工学の研究者の視点から、細胞や生体の機能解明や、力学刺激を使った骨折治療や再生医療の最前線の説明をします。 ③私たちの身の回りには「曲げを受けるもの」があふれています。曲がりやすいもの、曲がりにくいものはどのように決まっているのでしょうか？本講座では、曲がりやすさを測定する実験を行いながら、曲がりにくい断面形状を考えていきます。	①上野 誠也 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) ②白石 俊彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) ③松井 和己 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授)	①7月27日 (土) ②9月28日 (土) ③11月30日 (土)	環境情報1号棟316室	52 (3日間合計)
都市 イノ ベー ション 研究 院	都市交通最前線 都市交通に関する最新の研究動向や実践動向を紹介する	2003年より毎年実施している都市交通についての公開講座です。今回は、交通研究室の3人の教員で分担して、都市交通の内外の動き、高度道路交通システムITSに関する最新動向、中国の鉄道や都市交通の最新の動向、2012年度の研究室での学生の研究成果の紹介、の4つのコマを提供いたします。	中村 文彦 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) 田中 伸治 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) 王 銳 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 研究教員)	6月15日 (土)	【学外】YCC (YOKOHAMA CREATIVECITY CENTER) ヨコハマ創造都市センター	102

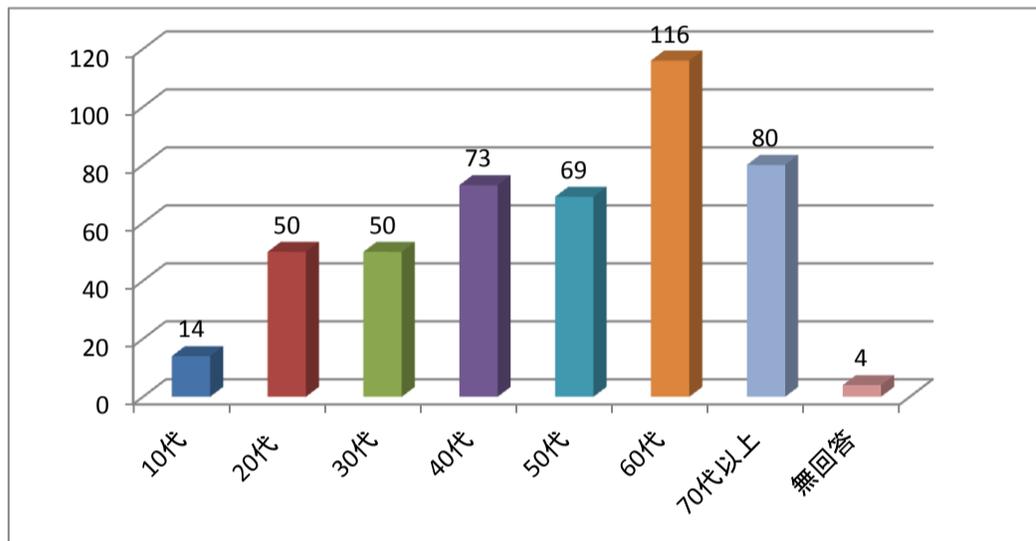
担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	参加人数
情報基盤センター	スマートフォン・タブレット向けのホームページ作成 これから始めるホームページ作成	スマートフォンやタブレット端末で見るためのホームページの作り方を、ホームページ作成の基本から学習します。スマートフォンやタブレット端末を使ったことがあると理解しやすくなりますが、それも含めて前提知識は特に必要ありません。実際に作りながら基本をしっかりと覚えていきましょう。	天野 英明 (横浜国立大学 情報基盤センター 非常勤講師)	6月8日 (土)	情報基盤センター PC教室	27
機器分析評価センター	テクノワールド 2013 最先端の分析機器を体験しよう	大学の研究で用いる最先端の分析機器の操作体験をしよう。分析装置の原理を理解し、身近なものを対象に自分で操作して観察・分析を行います。最先端の研究機器を体験してみましょう!! 実習予定機器: 透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡、電子線マイクロアナライザー、核磁気共鳴装置、質量分析装置、イメージアナライザー	荻野 俊郎 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 吉原 美知子 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 金子 竹男 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 根岸 洋一 (横浜国立大学 機器分析評価センター 特任技術職員) 石原 晋次 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 高梨 基治 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 田中 陽一郎 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 栗原 広成 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術補佐員)	8月6日 (火)	機器分析評価センター	20
統合的 海洋教育・ 研究センター	統合的な海洋管理に向けて II 「海を管理する」・「海を守る」	本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていただくことを目的としています。「統合的な海洋管理に向けて II」では、「海を管理する」と「海を守る」に力点をのいた講義を展開します。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授) 來生 新 (横浜国立大学 名誉教授) 松田 裕之 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 角 洋一 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 村井 基彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 早野 公敏 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) 他	4月8日 (月) ~ 7月22日 (月) (原則毎週月曜日)	大学院工学研究棟702	22
	統合的な海洋管理に向けて I 「海を知る」・「海を利用する」	本講座は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」に関する様々な話題を提供いたします。本講座を通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野を持っていただくことを目的としています。「統合的な海洋管理に向けて I」では、「海を知る」と「海を利用する」に力点をのいた講義を展開します。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授) 來生 新 (横浜国立大学 名誉教授) 荒井 誠 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 伊藤 公紀 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 菊池 知彦 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 加藤 峰夫 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究所 教授) 津野 宏 (横浜国立大学 大学院教育学研究科 准教授) 他	10月7日 (月) ~2014年2月10日 (月) (原則毎週水曜日)	大学院工学研究棟702	27
	海洋政策・法制特論	我が国の海洋政策について基本的知識を得つつ問題分析能力を修得することを目標とし、わが国の200海里水域が直面する政策課題を国際海洋法の理解との関連でテーマ別に分析する。また、国内の政策・法制度の観点から、海洋基本法及び第1期ならびに改訂になったばかりの第2期海洋基本計画に関する諸問題も取り上げながら論じる。 なお、理工系の方々にとっても理解が可能なように包括的に実施するとともに、公開講座として一般聴講者にとっても参考となるような講義とする。	中原 裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授)	10月2日 (水) ~2014年1月24日 (金) (原則毎週水曜日)	大学院工学研究棟702	8
共同研究推進センター	初心者のための燃料電池講座 燃料電池を基礎から楽しく学ぶ	初心者を対象とした燃料電池の実習講座です。燃料電池発電キッドを用いて水の電気分解と、その逆反応である燃料電池発電試験を行っていただきます。また、電流-電圧曲線を作成し、燃料電池の作動原理について理解します。	松澤 幸一 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 安田 友洋 (横浜国立大学 共同研究推進センター 特任教員 (研究教員))	5月10日 (金)	物質工学科化工・安工棟112室	11
安心・ 安全の 科学 研究 教育 センター	機械構造物のヘルスマニタリング	管子トンネルの天井崩落事故等、機械・構造物の高経年化に伴う事故が発生して大きな社会問題になっています。本セミナーにおいては、機械・構造物に埋め込まれたセンサーによる計測技術、またセンサーから発信される情報を集めて分析する、通信・情報技術等について、建設機械、橋梁、建築構造物の3つの代表的事例を挙げて、機械・構造物のヘルスマニタリングの現状と将来展望について議論を行います。	栗山 幸久 (横浜国立大学 安心・安全科学研究教育センター 客員教授) 永井 孝雄 (株式会社メビウス 取締役) 板生 清 (東京大学 名誉教授/一般財団法人構造物センシング 理事長)	9月25日 (水)	理工学部C講義棟201室	51
	産業界に貢献する安全工学教育	産業界では熟練技術者の大量定年退職を受け、安全確保のために若手技術者への安全工学教育の充実が求められています。本セミナーでは、米国の産業災害と安全工学教育の調査結果、民間企業のプロセス安全の教育、産業界と大学が連携した安全工学教育事業について紹介し、今後の安全工学教育のあり方を考えます。	半井 豊明 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 客員教授) 宮田 栄三郎 (住友化学 レスポンスルケア室 主席部員) 池上 正 (公益社団法人 山陽技術振興会 人材育成室 副会長兼室長)	12月20日 (金)	大学会館4階 会館ホール	68
	日本のエネルギー選択と次世代省エネ技術	地球温暖化に対しCO2削減のホープとされた原子力発電の安全は信頼が失われ、原発の再稼働をめぐる議論は二分されています。我が国における次世代のエネルギー選択について、講師の方々から客観的なデータを示していただくとともに、研究開発が精力的に行われている次世代省エネ技術の可能性についてお話しさせていただきます。	高橋 昭雄 (横浜国立大学 安心・安全科学研究教育センター 客員教授) 信時 正人 (横浜市 温暖化対策総括本部 理事) 矢部 彰 (産業技術総合研究所理事/日本機械学会会長)	2014年1月22日 (水)	教育文化ホール 中集会室	54

各部局開催の公開講座 参加者アンケートの集計結果

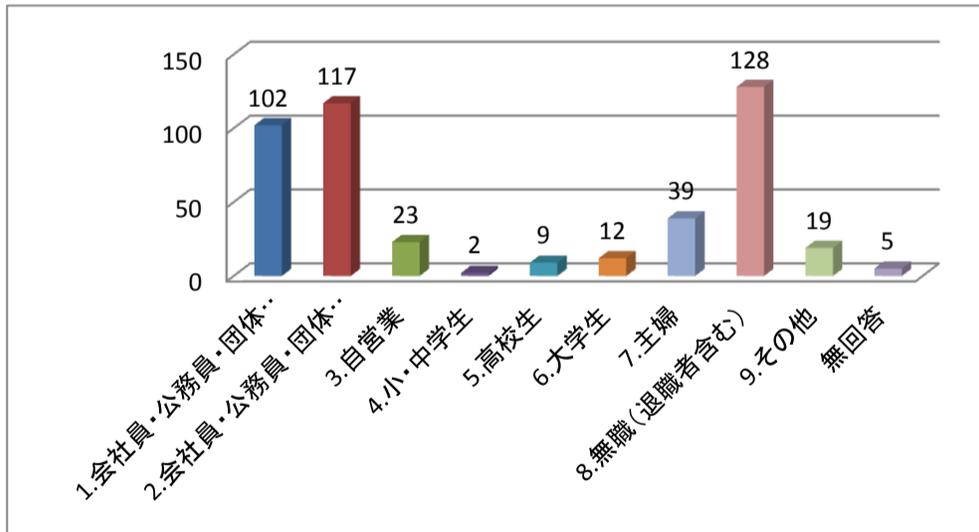
性別



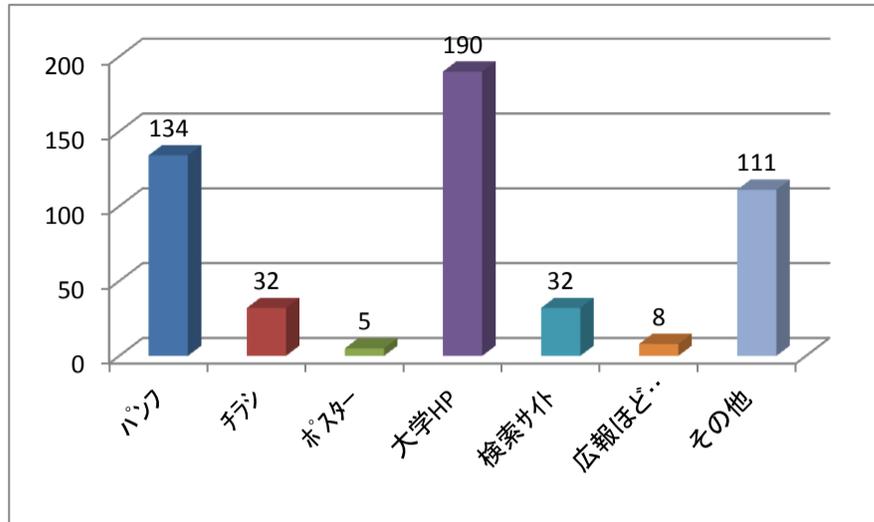
年代別



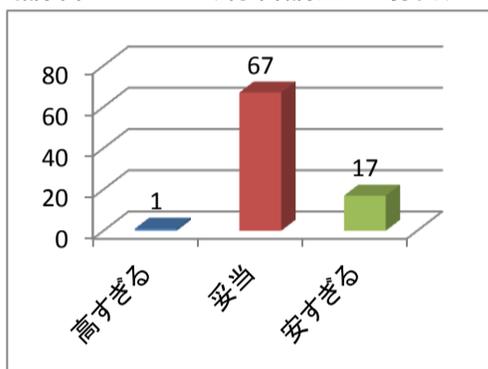
職業別



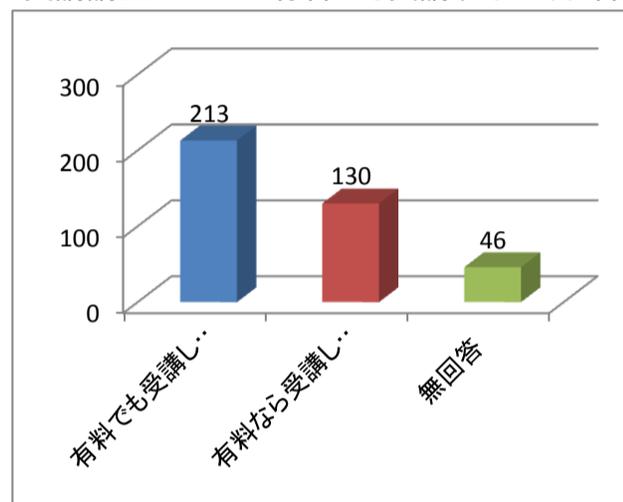
どこで本学の公開講座を知ったか



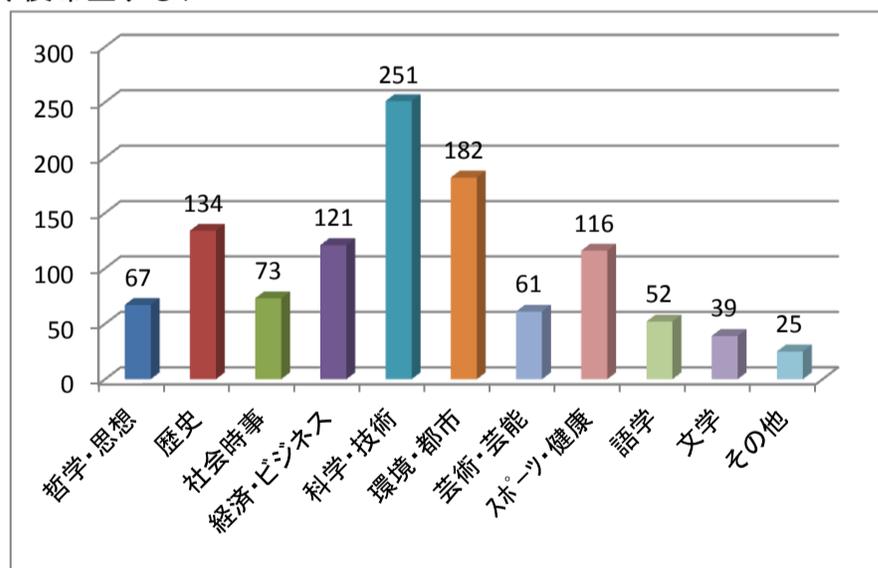
受講料について(有料講座の場合)



受講講座について有料でも受講するか(無料講座の場合)



今後希望するテーマ



公開講座委員会主催

「これからの都市に求められるイノベーションとは」

実施報告

◆総括

本講座は本学と読売新聞横浜支局の共催で、本学教育文化ホール大集会室において10月19日から11月30日にかけて8回開催されました。本年度のテーマは「これからの都市に求められるイノベーションとは」であり、横浜を中心とした国内外の主要都市を比較的に取り上げた上で、過去、現在、未来にわたる通時的かつ多面的な分野から都市に今後必要とされるものを学ぶ講座でした。今までの公開講座の実績、読売新聞での告知、開催場所、都市への興味などにより、10代から70代以上の幅広い年齢層から164名の申し込みがありました。実際の受講者は平均70名でした。そのうち6回以上出席の方は申込者の37%の68名であり、その受講者に修了証が授与されました。

アンケート結果を見ると受講の動機の89%は「これからの都市に求められるイノベーションとは」というテーマへの興味でした。全体で90%の受講生が「よく理解できた」あるいは「ほぼ理解できた」と回答しており、86%の受講生が「非常に有意義であった」もしくは「ある程度有意義であった」と回答しており、今回の講座に対して高い評価が得られたものと考えます。また44%の受講生は有料であっても出席すると答えており、受講動機を合わせて考えると都市イノベーションのテーマへのニーズは高いといえます。

本年度の全学公開講座の実施にあたって、8人の講師の先生はもちろんのこと、熱心に受講された方々、告知や記事掲載をしていただいた支局長をはじめ読売新聞横浜支局の方、講座の実施に心から尽力いただいた事務局の皆様深く感謝いたします。

◆申込者数 164名

◆申込者の年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	総計
人数(名)	2	23	8	21	24	45	31	10	164

◆受講者数（出席カード提出者数）

開催日	講師	受講者数（名）
10月19日	教育人間科学部准教授 小宮 正安	83
10月19日	都市イノベーション研究院教授 高見沢 実	81
11月9日	都市イノベーション研究院准教授 菊本 統	76
11月9日	都市イノベーション研究院准教授 田中 伸治	75
11月16日	都市イノベーション研究院教授 藤掛 洋子	69
11月16日	環境情報研究院教授 小池 文人	66
11月30日	国際社会科学研究院教授 氏川 恵次	69
11月30日	都市イノベーション研究院教授 佐土原 聡	68

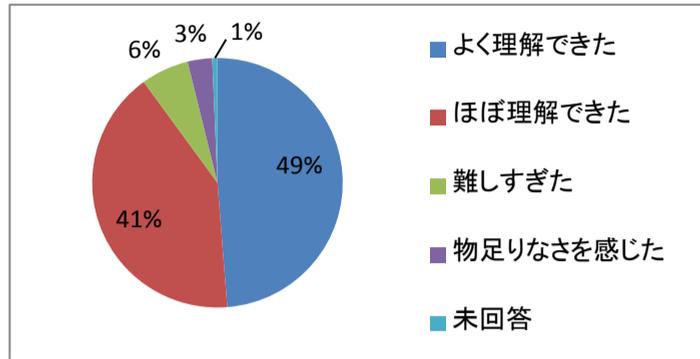
◆修了証授与数 68名

（全8回中、全6回出席した者に修了証書を授与）

平成25年度 公開講座委員会主催
公開講座アンケート結果

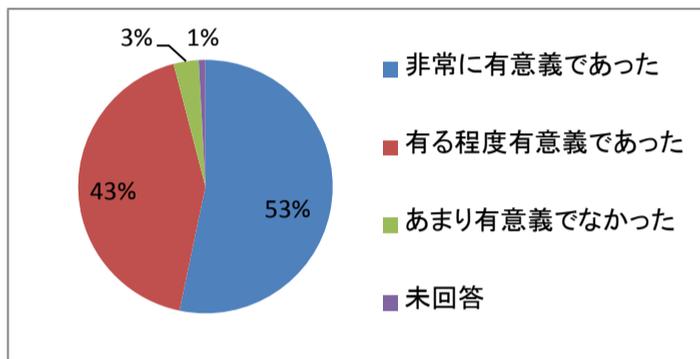
【問1】講座内容について、いかがでしたか。

よく理解できた	292
ほぼ理解できた	247
難しすぎた	37
物足りなさを感じた	19
未回答	4



【問2】受講して有意義であったと思いますか。

非常に有意義であった	317
有る程度有意義であった	254
あまり有意義でなかった	19
未回答	5

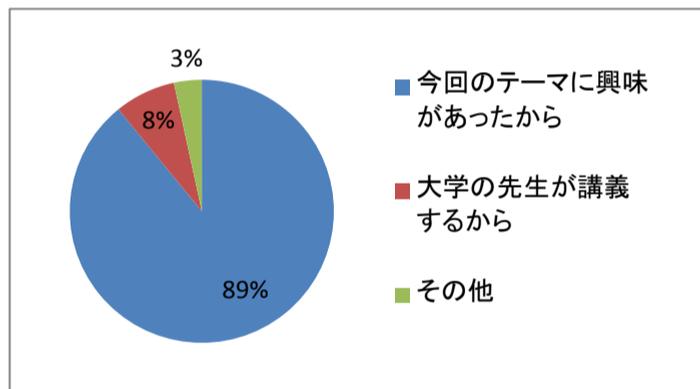


【問3】今回の公開講座の受講動機について、教えてください。

《第1回のみ調査》

今回のテーマに興味があったから	131
大学の先生が講義するから	11
その他	5

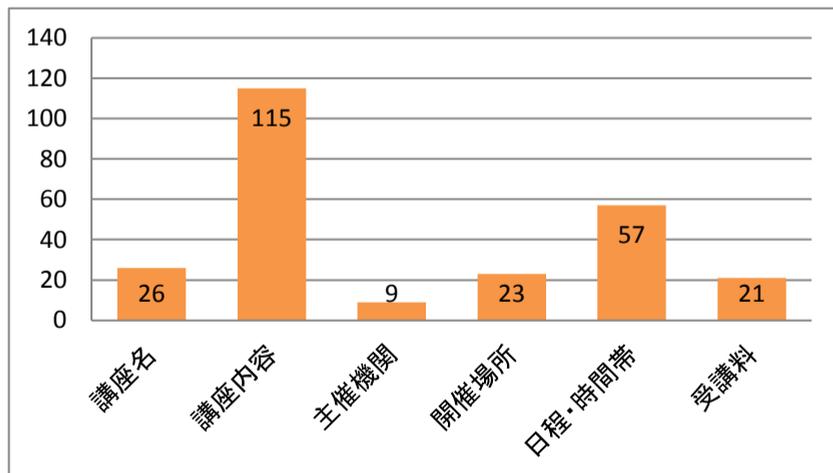
- ※その他のご意見
- ・読売新聞記事から
 - ・広く見識を身につけたいから
 - ・知識教養を高めたい



【問4】公開講座の受講を決める際に、何を重視されますか。

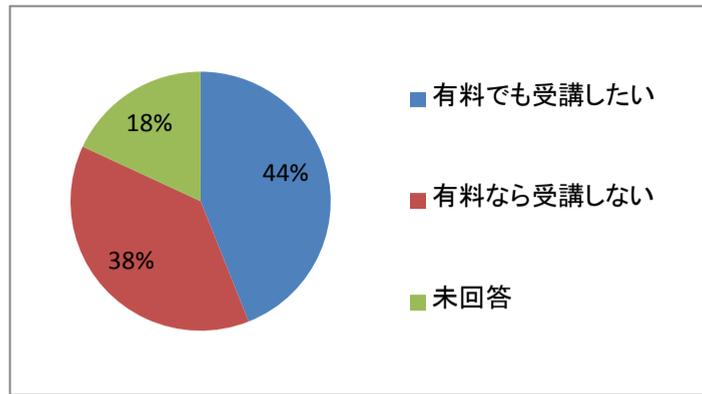
《第1回のみ調査》（複数回答可）

講座名	26
講座内容	115
主催機関	9
開催場所	23
日程・時間帯	57
受講料	21



【問5】 次回この講座が有料の場合、受講されますか。
《第1回のみ調査》

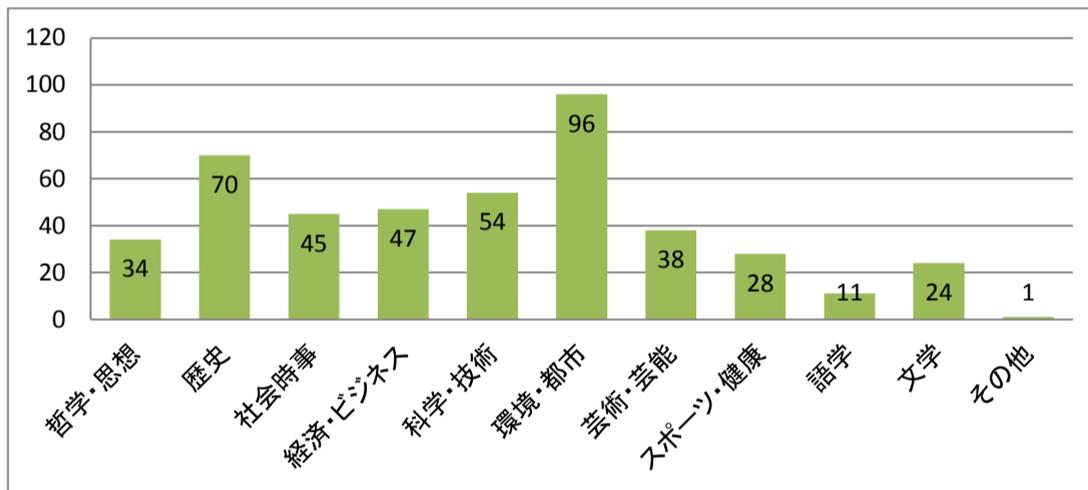
有料でも受講したい	73
有料なら受講しない	63
未回答	30



【問6】 今後、どのような内容の講座を希望されますか。
《第1回のみ調査》(複数回答可)

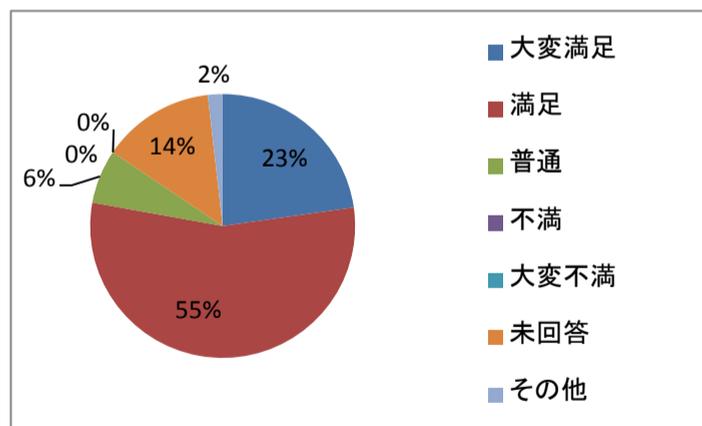
哲学・思想	34
歴史	70
社会時事	45
経済・ビジネス	47
科学・技術	54
環境・都市	96
芸術・芸能	38
スポーツ・健康	28
語学	11
文学	24
その他	1

※その他のご意見
 ・人生評論



【問7】 今回の会場について、いかがでしたか。
《第1回のみ調査》

大変満足	38
満足	92
普通	11
不満	0
大変不満	0
未回答	23
その他	3



【問8】その他のご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。
(多数のご意見から一部を抜粋しました。)

第1日目 I (講師:教育人間科学部 小宮 正安准教授)

・ザルツブルクの都市観の変遷、よく理解できた。世の中に知らせるには、有効なキャンペーンが必要であると認識した。
・「モーツァルトの街」のなりたちについて学ぶことは、通常の建築・都市について考えるアプローチの仕方とは、だいぶ異なる様に違ってくる感じた。
・ザルツブルクにタイムトリップした気がするほど入り込むことができた。大学生に戻って、先生の前で勉強したくなった。いくつになっても学ぶことはできるので、本を読んだり、現地を訪れたりしたい。
・第一回目の講演にふさわしく文化的な内容だった。モーツァルト～音楽～文化という観点から都市(ザルツブルグ)を理解することができ、非常に新鮮な知識を得ることができた。
・自分達の国にある価値あるもの・人に外部の人々から気づかされることもあるということを知ることができた。
・歴史を音楽文化からの視点で再認でき、興味が一層強くなった。
・ザルツブルグ・ウィーンともに訪問したこともあり、モーツァルトを巡る全体像が見えて面白く受講できた。都市間をめぐる関係もいろいろな視点でみると非常に興味がある。
・一般的な歴史的な話ではなく、私たちの現代の生活にも関連付けた内容で、より興味を持てた。
・話題としての人物評価と実際のその人物の生き方は違うこと、一方的な見方、双方向の見方についての見解がおもしろく、勉強になった。ガイドブック、数回の旅行で知ることのできない情報を教えて頂いた。

第1日目 II (講師:都市イノベーション研究院 高見沢 実教授)

・マンチェスターのスライドを見て、日本と異なる街並みを実際に行ってみてみたいと思った。
・都市の発展変遷の過程の面白さが分かった。日本ではどのようにして都市計画が活かされているのか、推進されているのか、研究者の皆さんの声が目の見ることを期待する。
・世界の都市について広く紹介されていた。今後都市計画を考える上で参考にさせていただきたい。
・技術革新と人口との関係、維新革命と都市工場とのつながり等、面白く拝聴した。得る所が多い内容だった。
・前半とのつながりと、より工学的な内容で興味深かった。都市工学(例:マンチェスター再開発)についてもう少し学んでみたい。
・技術革新と都市の関係性について、様々な事例を引用し説明していただき、よく理解できた。
・近代社会のstartのkey発明がJ-Wattの蒸気機関であるとした話は、とても印象的だった。技術一辺倒の話でなく大変分かりやすい内容だった。今後もぜひ参加したい。
・世界の都市の発展の過程を興味深く聴くことができた。特にマンチェスターの過去～現在に至る都市イノベーションの変遷は印象的であった。
・世界のフライトレーダー図には大変驚いた。都市・国の様子がよく分かった。

第2日目 I (講師:都市イノベーション研究院 菊本 統准教授)

・詳細な資料に基づいて理解し易い解説で大変参考になった。平素余り関心がないことだったが、新たな知識として身についたので戸外を歩くときでも地形や状況に関心を持って観察したい。
・災害についてよく解った。原因は地震、風水害(台風)など自然災害から発生することだが、対策は大変難しいことがよく分かった。
・身近な災害に関して”どうして危ないのか”という理由を歴史を通して説明頂き、とても納得感があり、為になる内容だった。
・とても分かりやすく、すぐに対策できることの教示もありがたかった。家具の固定の確認と逃げ道の再確認をする気になった。
・液状化については注意していたが、がけ崩れに関しては意識していなかったので、今後注意して見ていこうと思った。地すべり地形と盛土地域が横浜市内全体に多くあるということに驚いた。どんな土地であるかを調べてみたい。
・研究成果の説明が我々の実生活に役立つものであり、大変参考になった。特に調べ方の説明は是非役立てたい。

第2日目 II (講師:都市イノベーション研究院 田中 伸治准教授)

・交通マネジメントがとても充実しはじめているのに驚いた。
・車社会となって交通事故死傷者が出ることは、日常化になり「低減目標」を掲げているのも異様が気がする。様々な交通問題の研究試みが究極的には安全第一につながり、その上で効率コスト利便を求める様、交通問題に携わる研究者・指導者の一層の研鑽を望みたい。
・自動車の利用が少なく、すべて公共の乗り物と徒歩で生活している。知識として蓄えておくと息子家族との会話や孫たちの話題に参加できそうな内容だった。
・安全で良い環境の町作りに大切な事と思う。さらに歩道が段差や傾きでとても歩けないと思われる所など多くあるので、今後のシステム整備に期待する。
・交通に関して、海外の取り組みを始め、最先端技術の活用を知ることができて、非常に有意義だった。その中で自分のできることも提案して頂き、ぜひ実行したいと思った。

第3日目 I (講師:都市イノベーション研究院 藤樹 洋子教授)

・パラグアイのことを総合的に理解できた。また、地球市民としての活動についても大変共感を覚える。頑張っ欲しい。
・パラグアイに限らずに地球市民として自分にできることはどういうことなのかを考えるきっかけとなった。具体的に現地に行って活動している先生方は素晴らしいと思う。現地に行けなくてもできることはあると思うので、自分にできることから始めてみたいと思った。
・日本人入植者の血のにじむような努力と活躍、それが日本人の信頼につながっているとのこと。JICA等の活躍貢献。このような国際的な興味をもった大学生の存在等、誠に心強い。
・大変有意義だった。残念だったのは、大学祭の前にこの講義を受けたかったということ。大学祭でお茶や民芸品を販売して資金集めをしていたということを知り、よかったです。少しでもお役に立ちたかったから。近くに住んでいるので、来年お役に立ちたいと思う。
・”実際のジェンダー・ニーズの発見と充足”に係る話に感動した。教授の目線”学んだという表現”が非常に新鮮だった。
・各国ともそれぞれの歴史があるので、それを理解しかつ支援を受ける国民のニーズをあわせないと、ODAの効果が十分発揮されないことが理解できた。貴重な事例を知る機会だった。
・学生達にも真の支援は何か？を良く考える機会を設けているのは良いことだと思う。場あたりのでない支援をするのは、それぞれの立場で違うので非常に難しいと思うが、それを考えることは大事で貴重なことだと思う。

第3日目 II (講師:環境情報研究院 小池 文人教授)

・おもしろい統計などをみながらの説明は大変よかった。
・人口減少と野生生物の絶滅危惧の関係は耳新しい感じがした。
・生態系について大変参考になる講義であった。自然環境生物の保全維持は国家としても重要な問題で、人口問題にも関係がある訳で、政府が重点政策として推進すべきものとする。大学研究機関の研究成果、提言を政府が事業者に結びつけてもっと自然豊かな国を目指して欲しいと思う。
・都市環境が人間か生物の生態系に与える影響がさまざまな切り口から説明され、興味深かった。改めて緑の大切さを実感した。いろんなデータを知ることができるのは大学ならではの醍醐味だと思う。とても有益だと感じる。
・データを基礎に警告を発する内容で大変勉強になった。行政はこれらの問題に真剣に取り組んでほしい。
・緑が少ないと子どもが生まれないという話は、納得できる。横浜の緑が特に都市部でどんどん減っていることに危機感を持っている。
・人間が生存を続けていくための環境が緑地等の自然環境問題、人口増減の条件や森林の問題など、とても興味深いいくつかの問題が提起され、とても有意義であったと思った。次年度以降もこの問題をつづけて開催して頂ければと思う。
・環境関連の仕事をしていることもあり、今回の講義は面白かった。ぜひ都市計画に反映するとともにPRに努めてほしい。
・森林の人間にとっての機能に生態系機能と生物多様性と階層があり、表面的にとらえるだけでない考え方を知ることができてよかった。
・もっとゆっくりお聞きしたかった。都市計画に生態系がかかわっていることを改めて知った。これから東京オリンピックに向けて開発されていく際に、ぜひとも考えてもらいたい大事なことなのだと思う。

第4日目 I (講師:国際社会科学研究院 氏川 恵次准教授)

・神奈川県に生まれてから60余年過ごしているが、このような財政収支などの話は初めて聞いた。選挙などには大変な参考になることと思う。
・神奈川県の「産業連関表」の説明はよかった。地方財政措置住民一人当たりの受益格差が、選挙の時の一票の格差と類似しているのが窺われる。
・県民一人あたりの費用が意外に低いのに驚いた。京浜と言われても東京に飲み込みされた様な気がする。
・県(行政)、大学、大企業など県内には再生可能エネルギー導入を促進する科学・技術力は大きいと思われるが、その割には全国をリードする様な実績が上がらないのは残念である。
・神奈川のエネルギー部門への投資額が非常に少ないことに驚いた。県の取り組みは、表面的でなく内訳まできちんと見る必要があると再認識した。
・環境関連(エネルギー問題も含む)の仕事をしているため、話の内容は良く理解できた。図解した説明はとても有効であった。発電分散型、地域冷暖房を展開したいものだ。
・神奈川県は人口一人当たりの教育費が最低水準であることが印象に残った。
・都市エネルギー問題において熱供給ネットワーク、町づくりの必要性を感じた。(貿易収支の赤字を考えると)
・経済学や経済の指標を判断することは、自分には経験がないことなのでとてもためになった。産業関連家の応用例などを覚えると、いろいろな方面に使えるので、今後は身につけておきたいと思う。

第4日目 II (講師:都市イノベーション研究院 佐土原 聡教授)

・今後は災害等の対策を含め、自立分散型の電源システムの重要性が高まってくることがよく理解できた。
・冷静で論理的、丁寧で解説していただき大変よく理解できた。佐土原教授のライフワークとして、これからの日本のエネルギーシステムをリードして欲しい。最終講義にふさわしい講義を受けて、大きな満足感を得た。
・身の回りのエネルギーを考える時のスケール観が変わりそうな話だったと思う。でも難しかった。
・都市におけるエネルギーシステムは、地球環境問題をまた温暖化対策を充分検討の要があり、これからのことを含めて大変有意義な講座であったと思った。
・都市エネルギーの未来図がイメージできて勉強になりました。
・最初から良い設計が必要なのことが分かりやすかった。行政のリードが必要に思う。地球温暖化と都市地域の居住域の関係が整理されており分かりやすかった。
・将来のスマート社会でのエネルギーシステムのイメージを得ることができた。
・ノルドプールの売電、電力マーケットの話は大変興味深かった。日本の電力マーケットと大きく異なることに驚いた。
・豊富な事例と的確なまとめでよく理解できた。低炭素などのセミナーに興味があったので、とても参考になった。
・総合的エネルギーシステムについて、すべてのエネルギーを有効に使える仕組みを考えるのは複雑で難しそうに感じたが、これから必要とされることを再認識した。
・知らないところで大きな構想があることに驚いた。大地震の発生がやはり心配だ。
・タイムリーな話題で聞き入ってしまった。適応策はいろいろとあると思うが、現実的には東電、経産省との利害関係、政治との関係、費用対効果など難しい点があると思う。長期的な街づくりは大切な事だと感じた。
・ライフライン施設の規模の経済性と高集積街区での耐災害性との関係、計画的な都市設計等、改めて考えさせられることが多かった。
・防災、電力の自由化など他方面からの視点も交えてエネルギー管理をマネジメントする大切さが分かった。具体的な例が多く、分かりやすい内容だった。
・自身の研究が太陽熱の経済性・環境性評価に関わる研究であるため、研究の役立て方や着地点のヒントをもらうことができた。時間、ボリューム、講座内容の難しさとしては丁度よかった。
・世界各国の都市エネルギーシステムの紹介があり、大変有意義だった。